

令和5年度 大阪府立伯太高等学校運営協議会 第3回議事録

令和6年2月17日（土）10:00～12:00

記録：中村

協議会委員参加者（敬称略）

金田 優美 （令和5年度PTA会長）
田中 恒子 （地域教育相談員）
原田 尚史 （和泉市立和泉中学校長）
西田 芳正 （大阪公立大学教授）

学校教職員参加者

片山 造 （校長）
北出 眞理 （教頭）
津田 等 （事務長）
小川 敏和 （首席・進路指導部長）
中村 友香 （首席）

1. 会長挨拶（金田）
2. 令和5年度 学校経営計画の評価 ～令和5年度 学校教育自己診断の分析と評価を踏まえて～
3. 令和6年度 学校経営計画の概要
4. 本年度の進路指導について
5. 校長謝辞

[主な報告、質問、意見等] ◇は報告内容、○は質問、→は答え、●は意見や感想

2. 令和5年度 学校経営計画の評価 ～令和5年度 学校教育自己診断の分析と評価を踏まえて～

①「確かな学力」の育成について

◇授業アンケートの結果より

- ・展開の授業が多いこともあり、数値が伸び悩んでいる。
- ・座学と実技の数値の差はそれほどない。
- ・「授業がわかりやすい」等の項目は目標値には達していないのが現状だが、ICTの活用については大きく増加する数値となった。
- ・これらのことにより、まだまだ授業改善の必要性があることがみてとれる。

○生徒のアンケートで「知識・技能が身についた」という項目が数年下がっていたのはなぜでしょうか？

→コロナ化の真ただ中で、人前でプレゼン・スピーチなどの実施ができなかったことが要因の一つだと考えている。

- 学年の取組みの振り返りをするためにも、各学年の年度別での比較も必要だと思う。
- 私立に在籍している（又は通っている）生徒が、経済的な面で授業料の負担はなくなっているが、普段の生活の中で肩身の狭さを感じる人が多いと聞いている。家庭状況の差が影響しているが、現在私学人気が増加しているため、公立学校の魅力化や生徒への情報発信の工夫が必要とされる。
- 学童などで関わった子どもたちが伯太に多くきています。礼儀などの成長・達成感を感じる姿などがあり、本人も伯太に来てよかったと話していた。

②将来の目標に向かって努力する生徒の育成

◇理解納得に基づく生活習慣の形成、規範意識の醸成に係る取組みの推進について

- ・朝の遅刻に関する指導の内容を今年度より変更。生徒の理解納得に基づく生活習慣の形成・規範意識の醸成にかかる取組みとして大きく変化があった。

◇生徒理解にたった個に応じた生徒指導の充実

- ・教育相談に関する数値が微増。先生と生徒の関わる時間が指導の内容を対話的な指導としたことによるので、今後も継続。

◇1年生からのキャリア教育の充実

- ・キャリア教育の数値は大きく増加。伯太高校では将来のことを考える機会が多くある。

③安心安全で魅力ある学校づくり

◇生徒が他者を大事にして生徒同士がつながる取組み

- ・部活動の加入、活動率が低迷している。（部活入部率約3割）
- ・生徒の主体的活動の支援を軸として、その取組みとして行事の充実と部活動の魅力化を図っていく。

◇人権教育の推進

- ・SC・SSWなどの外部機関との連携が必要なことが多々あり、しっかり活用できている。

◇地域等とつながる取組み

- ・地域、中学校等との連携行事への参加、学校独自の地域清掃活動の実施、地域を活用した防災教育の実施等、今後も地域等としっかりとつながりを持ち、連携して指導等に当たっていく。

④教職員の育成等

◇組織的・継続的な教職員の育成

- ・今年度は企業に依頼し、夏季休業中に仕事を体験させてもらうなどの教職員研修を行った。実際の現場を体験することで、生徒の進路相談などにつながる貴重な経験となったと考える。

⑤学校教育自己診断から

- ・生徒との対話が増えてきた中で、生徒への伝え方に関して教員側の理解や伝え方の周知が必要になってくる

伯太を選んだ理由をみると、「総合学科だから」、「オープンスクールや外部会場での説明会がきっかけ」となっている生徒が多い。

- ・学校行事は従前どおりに戻ってきている。修学旅行に関しては実施前だったので「楽しかった」というよりも「楽しみにしている」という内容で数値が反映されたように思う。
- ・「通学できる」「部活や行事が盛ん」「制服のデザイン」が全体的に学校選びをする基準になっている。
- ・インテックスでの学校説明会を来年度は府立体育館での実施となるが、南地区の学校においてはあまりその恩恵は得られていない。HPなどを活用した発信に更なる工夫が必要となる。

3. 令和6年度 学校経営計画の概要

- ・確かな学力のなかで、外部との授業交流を考えている。そして、生徒に還元されるものとする。
- ・遅刻の目標数値を現状に合わせて下方修正した。
- ・キャリア教育で、自分の将来についてしっかり考える時間、機会を与える。そのためにも事前学習が特に大切だと考える。
- ・基本的な生活習慣がなかなか定着していない生徒が多いように感じる。放課後に話を聞いても、過度にアルバイトをしている生徒も少なくない。また、ヤングケアラーに該当する生徒も多い。
- ・何かに挑戦したい生徒も経済面の理由でできない場面がある。
- ・教職員による企業研修を行い、職業観や働くことの必要性・大変さなどを考える機会となった。
 - 夏季休業中に実施する教職員研修について、今後の目標人数（規模）の表記がなくなったことで、消極的と捉えられてしまうのではないだろうか。
 - 大学でもそうだが、高卒でも働いている現場に教員が足を運び学ぶ機会はとても貴重である。多種多様な進路の実現につながると思う。
- ・懲戒は昨年度に比べ同数程度。根気強くダメなことはだめと明確に伝えていく必要がある。
- ・学校行事が、ここ数年で制限が緩和され、生徒たちからも「楽しかった」という声が多く聞けた。
- ・校則については、文科省や教育庁からの通知もあり、「時代にそぐわないもの」についての見直しが多くされている。本校でも時代に即したのものへの見直しを検討していく。
- ・個別の対応が必要とされる生徒への対応も、今後必要な機会が多くなると思われる。
- ・教職員への研修（若手の育成に向けて）を、多種多様な内容で行う必要があると考える。
- ・働き方改革において、超過勤務も減少していないので、業務の見直し等も含め検討する必要がある。
- ・中教審の審議内容も踏まえて教職員研修を企画していく。
- ・キャリア教育について、講演会の中で卒業生が話をしてくれる機会を設けているが、今後さらにその機会を増やしてもよいと考えている。

4. 本年度の進路指導について

◇進路実績

- ・大学、短大15%・専門50%・就職25～27%
- ・就職から進学にシフトしていく傾向があった。また求人継続する企業が多かった。
- ・就職では企業側が人材獲得に苦慮しているようだった。学校斡旋就職については生徒には800程度の求人票を明示し、指導にあたった。
- ・進学では、入試の形が年々変化している。学科試験だけでなく、プレゼンなどの本人の考えを問うような入試形態が増えてきている。(その形態で受験する生徒も)
- ・看護医療系の決定し始めるのが例年より遅かったが、例年と同数程度の合格の報告をしてきている。
- ・例年あまり希望しない職種への希望者が増えた。(歯科技工士など)
- ・進学先を決めるにあたり、将来やりたいことを見つけるために大学に進学を希望する生徒が徐々に増えている。教員との面談を通して、高校に在籍している間に、ある程度、将来の進路に関する指針を本人が持てるようにできるのが大切。
- ・キャリア教育における講演会(卒業生の講演を含めて)を、また来年度以降も継続していく予定。

7. 校長謝辞

◇総合学科の良さを守り魅力を発信しながら、入学者の定員確保をめざしていきたい。

今年度一年ありがとうございました。今後とも伯太高校への応援をよろしく申し上げます。